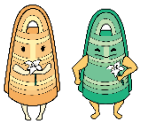
おおいしだより



大石まち協キャラクター
どうたく TWINZ
ゆりちゃん&たっくん

第55号

令和3年11月10日発行

発行　大石地区まちづくり協議会・大石コミュニティセンター
編集　広報紙編集委員会

坂井市春江町上小森 6-12　TEL／FAX(0776)72-0002
まち協ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www4.fctv.ne.jp/~ohishimk/
大石ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰｱﾄﾞﾚｽ　ohishi-cc@city.fukui-sakai.lg.jp

まち協HPは
こちらから

大石地区の人口・世帯数		
（令和3年 10 月1日現在）		前号比
世帯数	1,370 戸	- 8
人 口	4,095 人	-19
男	2,028 人	- 6
女	2,067 人	-13

「大石地区の歴史文化をめぐる」～歴史探訪～　7/18(日)

坂井市では、市内の有形無形の歴史文化資源を地域ぐるみで保存活用し、後世に継承するための「文化財保存活用地域計画」の作成に取り組んでいます。その一環として、昨年の「輪中域を歩く（坂井木部・三国木部まち協共催）」に続き今回は2回目の開催です。ゆりの里公園に集合、石塚神社の神石（岩座）・春江堤防築堤記念碑・振姫終焉（ふりひめしゅうえん）の地・鬼ヒバと馬場通り・石造六重層塔（下小森神社）と巡りました。まち協委員、各地区の担当者がそれぞれ説明にあたりました。青空の下、総務・広報部会が作成した「大石地区紹介マップ」（各戸配布済み）を見ながら参加者 38 名は、汗をかきながら熱心に説明に聞き入っていました。

坂井市教育委員会主催・大石まち協共催

◆シニアのためのスマホ教室　～5 回シリーズ～

健康福祉部会　7/14・21・26・28・8/4(水)

携帯ショップお客様アドバイザー、清川和雄氏を講師にスマホの基本や、LINE の使い方などを学びました。好評のため申し込みが多く参加者は抽選となりましたが、11 月に2回目の開催を予定しています。

◆地区ラジオ体操会

健康福祉部会　7月～8月

昨年同様にコロナ禍のもと、大石小学校校庭での「夏休み親子ラジオ体操会」は中止になりました。

各集落でのラジオ体操は、11 集落で行われました。期間は 7/21 からお盆前の 8/6、8/13 がほとんどでしたが、中には 8/26 もありました。190 名の参加者があり、3回以上の出席者には、粗品を進呈しました。

◆いやしの絵画展

安心・安全部会　9/13(水)～10/12(水)

夏休みに大石小の児童を対象に、地区の風景や家族の団らんなど、安心安全を感じる場面の絵を募集したところ、105 点もの作品が集まり入選 26 点が選ばれました。

その作品展を大石コミュニティセンターで開催、たくさんの方が見に来られました。

◆敬老お祝い品の配布

敬老に関する事業　9月

今年度の敬老会も、新型コロナ感染症拡大防止のため、昨年度に引き続き中止となりました。敬老会に代わる敬老事業として 75 歳以上の方に、地区の区長さんなどから敬老お祝い品をお渡ししました。

◆第 16 回 坂井市花壇コンクール 広域審査部門入賞

花・環境部会　8/4 日(水)審査

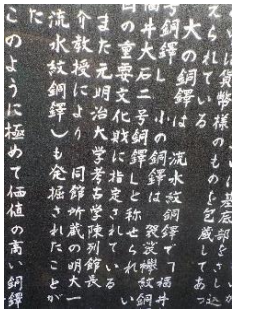
◆大石地区まちづくりプラン作成に向け学習会

大石ビジョン作成事業

大石地区まちづくり協議会は、平成20年に設立以来、地域の活性化や住みよいまちづくり活動に取り組んできました。12年が経過した今、ひとつの区切りとして、これまでの活動の成果を検証し今後の住民主体のまちづくりについて考えたいと思い、大石地区まちづくりプラン作成を計画しました。まちづくり協議会の各部会をはじめ、地域で活動されている各種団体のみなさんと連携協力し、まちづくりプランを作成していくにあたり、講師にアルマス・バイオコスモス研究所の水上聡子氏を迎え、8/20(金)、9/9(木)の両日学習会を行いました。学習会では、住民主体のまちづくりについて、積極的な意見交換が行われました。 今後は、講師に福井大学国際地域学部准教授の田中志敬氏を迎え、引き続きまちづくりプランの作成に向け、取り組んで行く予定です。

大石歴史探訪⑤　　記念碑「大石銅鐸出土之地」(大牧)

昭和41年から始まった県営土地改良工事(用排水路の分離と圃場の大区画整理)によって生まれた狭い三角の角地を利用して、昭和59年4月春江町により大牧地籍にこの記念碑が建立された。毛利権一著「堤防―暴れ川、九頭竜川を制した男たち」によると、1868年(慶應4年)2月16日黒川藤右ヱ門(石塚)・黒川松右ヱ門(石塚)・水島嘉ヱ門(井向)の3名が井向村字島田で畔(くろ)とよばれる小高い丘(畑として利用されているものもあった)を崩して、付近の沼に運んで水田を造成する作業中、土中に大小2個の銅鐸が埋まっているのを発見した。土地の所有者である岡部直富(直景の父)に届けた。直富は大牧の絵師に写生させほぼ完全な形の小の方を当時井向村の領主であった三河西尾藩主に献上し、今は名古屋市在住の個人が所蔵している。一方、やや破損している大の方は岡部家に保存されていたが、今は兵庫県西宮市の財団法人辰馬考古資料館所蔵となっている。なお、記念碑の裏面の説明には「元明治大学考古学陳列館長、故杉原荘介教授により同館所蔵の明大1号銅鐸も発掘されたことが確認された」という記述がある。大石銅鐸3個説である。明治大学考古学陳列館が所蔵している明大1号銅鐸は、その木箱に「越前大石村」と書かれていることから、春江町役場新庁舎落成を記念して銅鐸を展示するため明治大学から借用したとき同大学の関係者が、春江町史編纂者であった斎藤与次兵衛氏宅を訪れて、聞いた話がもとになっていると



について井向の古老から話を聞いたとき、「もう1個出たという話を聞いたことがある」と語ったのを明大1号と結びつけたものと思われる。この古老は、昭和初期京福電鉄三国芦原線敷設のため、三国町の山すそを削る工事中に発見された銅鐸のことと混同したのではないかと毛利氏は推測している。岡部家に届けられた2個の銅鐸は実物を借りることができず、写真提供だけだったが、明大1号銅鐸は2つにくらべて破損も少なく錆も緑青一色なのに、2個はともに腐食による破損が目立ち、見るからに古色蒼然としており、3個が同じ場所から出土したとは考えられない。ちなみにこの明大1号については、考古学会では井向出土と認知していないようである。と述べている。 大小2個の銅鐸が出土した場所は、記念碑から約100m東の地点で、現在は大区画の田んぼになっている。畔とか沼地・湿地は今はほとんど見られなくなってしまったが、明治には至る所にみられ、茅場や畑として利用され、一面平坦な平地ではなかった。北陸本線の線路を敷設する際、盛土に使われたのはこの畔を崩した土であったことはよく知られている。(芳)

コミセン講座

コミセンだより

令和3年度は下記の3講座を開講しました。

ヨガ＆体操　6～3 月　砂畑佐知子講師

のどを鍛えて肺炎予防　6/9.16.23　島崎直子講師
（好評につき追加講座　7/7.14.21）

Let ‘sパン作り　6～1 月　朝倉雅美講師

次年度もいろいろな講座を開催予定です。みなさまのご参加をお待ちしています。

坂井市放課後子ども教室実行委員会

大石子ども教室

夏休み わくわく 体験

地域の方々の参画を得て
いろいろな教室を開催しています。

将棋教室 6～12 月

科学実験キャラバン（福井工業大学）
はちみつすらいむをつくろう　8/5（木）

「警察官のお仕事」（指紋採取体験）　8/3（火）

山中美空

西畑咲良

中林郁嘉

生け花教室
6～12 月
（小原流）

中林千晶

西川千華

勝村美咲

清水美祥